

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	JINNYONE		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数) 9人
○従業者評価実施期間	2026年3月1日		2026年3月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムを5領域に沿った内容をスタッフ全員で共有することでより支援につながっている 活動内容は指導案を作成、それを基に活動実施。 スタッフの配置等細かく打ち合わせし実施後に見直しを行うことで支援の質を高める事ができている。	毎日必ず始業前と終了後にミーティングを実施している。活動内容と児童の振り返りを行い統一した声かけが行えるようにしている。	スタッフの教育を強化し、全員が質の高い支援を提供できるような取り組みを実施。指導案は一人で作成せず必ずオブザーバーとして児童発達管理責任者が確認。また内容は当日関わるスタッフ全員で意見を出し合いコミュニケーションエラーが起こりにくいように工夫している。
2	児童の気持ちを最優先した支援を実施 またご家庭の状況に応じた利用希望に配慮	送迎時間はなるべく児童の希望にそった時間に対応できるようにしている (例えば学童に通うことがストレスになる場合はできる限り下校時刻にお迎えなど)	児童一人一人とかがわりが持てるような時間配分ができればと考える
3	不安や困りことがあるときだけでなく、常に保護者とコミュニケーションを密にすることを心がけている	事業所に来れない家庭は送迎時に面談をする時間をとらせていただき、事業所以外での様子をしっかりと把握するにしている	事業所以外の学校や他施設とのかがわりを増やしていくことが支援の質の向上及び本人の意思決定支援

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童全員の他利用施設等の共有が不足している	事業者連携や関連施設への訪問は人員の配置が困難な状況	重大な問題が起きている場合や保護者からの希望がある場合は学校訪問等実施している。オンラインや電話連絡などで情報共有をしっかりと行うことが必要
2	非常時等の対応に不安がある	臨機応変な対応となりマニュアルに沿った行動ができていない	全員がマニュアルにそっておこなえるようにマニュアルの内容のブラッシュアップ。またアクションカードを使用して一人一人が自分で考えて行動できるような体制を整える
3	ICTの活用がうまく使いこなせない事で業務の効率化が図れていない	パソコンなどの電子機器の利用が苦手な人が多い PCの操作などICTを活用するに充てる時間の確保が難しい	できるだけ転記する作業をなくし時間の効率化が図れるようにする